

第 8 回 宮城県特別支援教育将来構想審議会 主な御意見

課 題	主 な 意 見
<p>パブリックコメントの整理・反映</p> <p>3 各学校の現状と課題</p> <p>(1) 小・中学校</p> <p>(2) 特別支援学校</p> <p>(3) 高等学校</p>	
<p>5 今後の特別支援教育の進め方</p> <p>目標 1【自立と社会参加】</p> <p>(1) 乳幼児期（早期）からの支援体制の充実</p> <p>(2) 卒業後の心豊かな生活への円滑な移行を支援する体制の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 障害を早期に発見ではなく、適正な時期とした方がよい。 ● 障害の疑いのあるではなく、支援の必要とした方がよい。 ● 保護者の正しい障害の理解ではなく、その子に合った支援に保護者が気づけるとした方がよい。 ● 障害という診断自体が難しい子どももあり、適正な時期とした方がよい。 ● 障害はないものの、支援が必要な子どもへの対応は難しいが必要である。 <ul style="list-style-type: none"> ● 生徒本人や教員が望む場合には、卒業後に就労先や地域社会で円滑に生活できるよう、実践的な訓練等を後押しするなど、踏み込んで挑めるような表現にするとよい。 ● 研修会や研究会だけでなく、適宜要請できるような大学との連携とした方がよい。 ● 本人や教員が社会参加へチャレンジすることを後押しできるような文言があるとよい。 ● 大学等と連携できるようなシステムを考えるべき。
<p>目標 2【学校づくり】</p> <p>(2) 学習の質を高めるための教員の専門性向上</p>	

<p>目標2【学校づくり】</p> <p>(1) 多様な教育的ニーズに応じた学びの場の実現</p> <p>(2) 学習の質を高めるための教員の専門性向上</p> <p>(3) 学習の質・効率・効果を高めるための環境整備</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 交流及び共同学習を進め、障害のない子どもとの相互理解について言及した方がよい。 ● 児童生徒の多様な教育的ニーズへの対応の更なる充実を図るため、交流及び共同学習を推進する必要があると加えた方がよい。 ● 肢体不自由のある児童生徒に対応するためのバリアフリー化と記載されているが、新設する学校だけではなく、既存の小・中、高等学校、特別支援学校の施設・設備の充実についても記載した方がよい。 ● ICTの活用も含めた教材教具の充実と記載されているが、各特別支援学校とも十分な環境にはないので、大学等との連携を図ることも必要である。 <ul style="list-style-type: none"> ● 高等学校でも特別な支援を必要とする子どもが増えており、今後更に特別支援学校のセンター的機能への要請が増えると思われる。 ● 多様な教育的ニーズに対応できるよう、研修内容の見直しを行うとともに、多くの教員が研修を受講できるようにし、特別支援教育コーディネーターの裾野を拡げることが必要である。 ● 新たな構想は高等学校も含むことから、高等学校全体の底上げを図り、支援が必要な子どもへの対応が必要である。
<p>目標3【地域づくり】</p> <p>(1) 共生社会の実現を目指した理解促進</p> <p>(2) 市町村教育委員会への支援充実</p>	